

自分に酔う

私は、テレビや観衆の前で話すこと、いわゆる
プレゼンテーションを仕事にしています。

よく聞かれる質問に、「どうしたら上手くプレゼンが出来るんでしょうか？」があります。その質問に私はこう答えます。『自分に酔う』ことですね、と。『自分に酔う』という言葉の印象は「思上がり」や「うぬぼれ」などあまりよいイメージがありません。でも私は、『自分に酔う』ことは、表現をするあらゆる人々が、成功する最大の秘訣だと思っています。『自分に酔う』ことは、自分がやってきた訓練や培ってきた知識の対価です。『あんなに練習してきたのだから…。あんなに取材したのだから…』という自分の誇り。だから「みんなに自分の戦う姿を、自分のパフォーマンスを見て欲しい」と思えるんだと思うんです。オリンピックで私たちに感動を与えてくれたアスリートたちの戦いのあとのインタビューを見ていつも思

うこと、また、メジャーになったミュージシャンなどアーティストにいつも思うこと、それは、自分に酔っていない人はいないということ。逆に言うと、自分に酔わないと、よいパフォーマンスができないんだと思います。

私は、プレゼンテーションする内容を時間がある限り、広くそして深く取材します。そして集めた膨大な情報を要約して、簡潔にわかりやすく伝えていきます。そのとき、私は心の中で「こんなに面白い情報を、こんなにたくさん集めて分析してまとめたプレゼンテーションを、みんなに早く伝えたい」と思うように、『自分に酔う』努力をしています。私たち日本人は、謙虚につつましやかにふるまうことが素敵なことだと思ってきました。もちろんそれはとても素敵なことです。私も、これからもそんな日本人でいたいと思っています。でも、それに加えて心の中で「私は、こんなにやってきたのだからスゴイですよ！」と完全によい意味で『自分に酔う』ことができる、さらに私たち日本人のよさが、日本人の本当のオリジナリティーのある強みが、出てくると思っています。さあ、みんなで自分に酔いましょう!!



神奈川県生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科修了。広告プランニング、広告映像アートディレクターとして活動後、NHKに入局し、番組のアートディレクション、NHKロゴマークデザイン、長野オリンピック国際発信公式映像 映像監督などに携わる。また、グッドデザイン賞の審査委員、アートとテクノロジーの融合を目的としたWEB TV「木曜新美術館」館長も務める。